

和光



発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700番地

国立療養所 奄美和光園

電話(0997)52-6311 FAX(0997)53-6230

令和元年11月1日
(2019)

第115号

■表紙	1
■敬老祝賀会	2
■南大島バスレクリエーションに参加して	3
■秋の映画鑑賞会	4
■県庁舎訪問・県内めぐり	4～5
■第35回和光園ゲートボール大会に参加して	6

■第31回ハンセン病コ・メディカル学術集會に参加して	7
■百寿の御祝い	7
■研究会参加報告	8
■あまみ保育園ハロウィーンイベント	9
■作品紹介	10
■新人紹介・NST News Letter	11
■令和元年度診療統計	12
■人事異動・和光園日誌・今後の行事予定・編集後記	12

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。



基本方針

1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます



令和初の敬老祝賀会が9月12日13時30分から開催されました。

最初に、園長の開会挨拶で敬老祝賀会の趣旨について話がありました。その後、入所者相談係からは奄美和光園の概況や沿革についての話があり、皆さん熱心に聞いていました。続く来賓挨拶では、今回参加できなかった奄美市長の代理として、奄美市保健福祉部長から入所者のみなさんへの祝辞をいただきました。奄美市・奄美市社会福祉協議会からは100歳以上の方への敬老祝金・記念品の贈呈もありました。祝唄・祝舞の披露の後、参加者全員で和光園歌を斉唱し、会場は祝賀気分になりました。

凛々しい式が終わり、余興の部になりました。入所者の皆さんによるカラオケ、職員による踊りで会場は大いに盛り上がりました。また、保育所の園児たちも元気な歌・踊りを披露してくれました。余興の最後は、参加者全員で島のブルースと六調に合わせ踊りました。参加者全員が楽しい時間を過ごせたと思います。

余興の部終了後、事務長によるお礼の挨拶があり、敬老祝賀会は滞りなく終了しました。入所者の皆さんのご健康とご多幸をお祈りいたします。

庶務班長 清田 和博



9月26日 南大島バスレクエーションに参加して

台風で心配された天気も、神様がこの日にあわせてくれたのか、雨に打たれることなく出発することが出来ました。北大島の龍郷町出身である私は、南大島の古仁屋まで行くのはなんと初めて、多分入所者の皆さん以上に、期待と楽しみで眠れない夜を過ごしました。

いつの間にこんなに増えたのか、長いトンネルをいくつも通り抜けながら思い出しました。高校生の頃、友人に会いに宇検村までバスで行き、途中あまりの道の悪さに青ざめ、冷や汗をかき、手に袋を握り到着するまでの長い時間、この悪路を必死に耐え凌いだのです。それが今は、なんとということでしょう。快適な道路に生まれ変わり、心地よい揺れに風景までもが心を和ませ、1時間半程度で古仁屋に到着してしまったのです。

最初の訪問先、ライベストイン奄美ホテルに併設された奄美戦史模型資料館では、戦艦・駆逐艦・ゼロ戦など模型の精密さに驚き、これだけの戦艦を日本が保有していたことにまた驚き、入所者の皆さんのなかでも感嘆の声があがっていました。ゆっくり見学した後は、お楽しみの昼食です。

準備したテントの中で、どの顔も笑顔、持参されたお手製の柔らかく煮込んだ豚足をそれぞれのお皿に分けて、皆さんがそれはもうおいしそうに召し上がるのがほのぼ

のとしてとても印象的でした。

昼食の後に立ち寄ったのがホノホシ海岸、「あそこまで…」びっくりするほど海岸が遠く感じました。強風で遊歩道も車椅子では相当揺れます。そして難関な坂道、額に汗しながら車椅子を押して必死に登っていきます。手の力が急に要らなくなり、目の前に広がった視界は、外海に面した海岸で、荒波で削られた真ん丸の石が一面海岸を覆っている、一見穏やかそうで実は自然の厳しさをまざまざと見せつけられた風景でした。

帰りのバスの中でも、皆さん気分よく昔の話をされたり、道沿いに建つ馬場先生のお家を眺めたり、風景を楽しんだりしながら、園に到着です。疲れたと思うのもつかの間、いつもの日課が始まりました。「あなた疲れたの？私なんかこれくらいでは全然よ」入所者の皆さん元気です。あんなに寝ていたHさんも到着後はしっかり目が覚めて、「記念撮影なんか覚えていない」なんてけろっと笑いながら話されていました。誰一人気分悪くなることもなく、怪我もなく、何事もなく無事園に帰りつきました。

皆さんのタフさに驚き、その強さを見習いながらまた明日からの糧にします。皆さまありがとうございました。

不自由者棟 看護師 長井 久美子



秋の 映画鑑賞会

今年の秋の交流会では、初めて映画鑑賞会を開催しました。以前、一般舎を対象に映画鑑賞会をした所「病棟・不自由者棟の人達と一緒に見れたらいいね」という言葉が上がりました。その言葉をきっかけに今回は、5作品をピックアップし入所者全員に見たい映画のアンケートに答えていただき、1番票が多かった“青い山脈”の上映に決まりました。上映場所は全員が余裕を持って見れる“あすなろホール”にしました。

いざ映画鑑賞会の日が来ると開始時間は13:30でしたが、早い人になると30分も前から来られ1番前の席に座られ「まだか、まだか」と楽しそうに待つ姿も見られました。上映が始まると、皆さん口々にスクリーンの大きな画面やスピーカーの大きい音にびっくりされていました。見終わった後は満足された様子で「昔はよく講堂で映画

を見ていたので、懐かしかった」などの話が多く聞かれ、また「次は別の映画が早く見たい」と早くも次に期待をされているようで、私自身もとても嬉しかったです。今後も映画鑑賞会を企画して行きたいと考えているので、お時間がある方は是非足を運んで頂けると嬉しいです。

今回ご参加頂いた入所者の皆さん、職員の皆さん、お忙しい中ご協力本当にありがとうございました!!

看護サービス委員

治療棟 介護員 作下 志信



映画鑑賞会の日のおたのしみケーキ
ハロウィーンのカボチャのクッキー付き♪

県庁舎訪問・県内めぐり

令和元年10月10日木曜日・11日金曜日、次から次に襲い来る台風のさなか、第18回県庁舎訪問・県内めぐりが開催されました。

前日まで、飛行機が飛ぶか心配されましたが、見事な日本晴れの中、入所者3名と職員5名、元気いっぱい和気あいあいと出発しました。

今年は、鹿児島空港から南へ下る南薩観光の旅です。

鹿児島に着いてみると、奄美和光園一行を歓迎するかのように桜島が噴火。その勇壮な桜島の姿をかき消すほど舞い上がる灰を車窓から眺めながら、一路、鹿児島ふるさと物産館へ。そこで、県職員8人に加え、菊池恵楓園の2名、星塚敬愛園の18名、

県外から参加の1名と合流し、おいしい昼食をいただきました。お昼から、美味しそうに生ビールを酌み交わす光景もあちらこちらで見られ、皆の気持ちも一気に若返る思いでした。

そこからは大型リフトバス2台での大移動です。

澄み渡る青空にそびえる開聞岳に見とれながら、色とりどりに花が咲くフラワーパークかごしまへ向かいました。道中も、桜とコスモス、なんと春と秋の花が咲き、我々一行の訪問を喜んでいる模様。フラワーパークでは、鹿児島へ嫁いだ娘さんと喜びの再会をされた方あり、楽しそうにお土産を選ぶ方あり、旧友と一緒にカートに乗って、園内を周遊する方

あり。それぞれに充実した時を過ごしました。

その後、指宿シーサイドホテルに到着し、しばし休憩した後は、楽しみにしていた夕食・懇親会の始まりです。来賓の、指宿副市長・佐藤氏が「指宿でのあいさつはいつも『アロハ〜』ですよ」と話された後は、皆、あいさつも、記念撮影の時も、親指と小指を立てて『アロハ〜』と満面の笑顔。ちなみに、佐藤副市長は、服装もアロハシャツでした。〇

菊池恵楓園の若い職員が「奄美和光園へ捧げます」と言って、中孝介の『花』を歌えば、和光園の歌姫HSさんが『島のブルース』を熱唱。それに合わせて和光園職員が踊りだすと、県の職員も次々連なり、全員参加のお祭りの様。最後は和光園の大御所KIさんが見事な声量で『柔』を歌い上げると、拍手喝采の大盛況となりました。

翌10月11日金曜日は、まず、薩摩伝承館へ。指宿白水館が60年かけて蒐集されたという、まばゆいばかりの金襴手薩摩焼や絵画を眺めて心を満たした後は、奄美の里で昼食をいただき、いよいよ県庁舎訪問です。

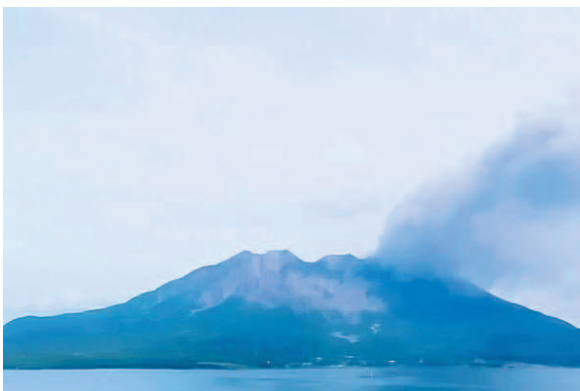
三反園鹿児島県知事が「この県内めぐり

は、故郷を離れることを余儀なくされた方々のために、帰郷の機会を作る」目的で開催されていることに触れながら挨拶されると、各園の入所者の方も感謝を述べる、心温まる懇談会となりました。三反園県知事との記念撮影の後は、前夜の懇親会で一気に距離を縮めた方々との交流の花が、あちこちで咲いていましたが、飛行機の時間に追われるように、奄美和光園のメンバーはバスへ乗り込み、大勢の方に見送られながら帰路につきました。

一泊二日の短い旅ではありましたが、県職員の方々の心づくしのおかげで、大満足・大充実の楽しいひと時を過ごすことができました。また、この旅に同行させていただいた入所者の皆さんに感謝しつつ、いつまでも、皆さんが元気で、来年も再来年も、楽しく元気に県内めぐりが開催されますことを願い、明日からもまた笑顔満開の日々を過ごしていきたいと思います。

関係者の皆様、本当にありがとうございました。

福祉室 福祉係 平 正美



第35回 和光園ゲートボール大会に参加して

今回初めて和光園のゲートボール大会に参加させていただきました。台風接近で大会自体どうなるのか心配でしたが、当日は少し風の吹く小雨で開催することができました。残念なことに、喜界島の2チームが悪天候の為不参加となりましたが、13チームが参加し白熱したプレーが展開されました。みんなの思いが通じたのか徐々に天候も良くなり、気持ちよくプレーすることができました。

和光園からはA、Bチームの2チームが出場しました。気持ちは優勝と意気込んでいたのですが、他チームの足元にも及ばず、第一ゲートを通過することさえできない状況でした。私が出場したAチームは、相手チームに全く歯が立たず惨敗という結果となりましたが、Bチームが1回戦を突破する快挙がありました。そこでも、様々な笑いが巻き起こり、真剣プレーの中で起こるハプニングがとても楽しく、和気あいあいとした雰囲気の中で良い汗を流すことができました。また、唯一入所者参加のSさんはスタッフへ声掛けし、自らも好プレーを出し笑顔も多く見られ楽しませていました。

他のチームは日頃の成果が発揮され、多くの好プレーが見られました。好プレーが出るたびに、周りからは歓声が聞こえていました。試合の結果、宇検村の湯湾チームが総合優勝となりました。その後は、みんなで昼食を取り色々な場所から笑い声が聞かれ、カラオケでは、歌や踊りで盛り上がりました。

35回開催された和光園でのゲートボール大会は、様々な思い出のある行事の一つであったと思います。話を聞くと「前にはもっとたくさん人が来ていた」「一日かけて試合が行われた」「この大会を楽しみにしている人が多かった」等、多くの人がゲートボール大会を通じて和光園の歴史を知り、入所者との良い関係づくりに繋がっていったと思います。残念なことに入所者の高齢化に伴い今回を持って大会は幕を閉じることとなりました。惜しまれる大会終了ではありますが、入所者の皆さん、地域の方々、これまで参加してきた奄美の方々の記憶にずっと残り続けると思います。お疲れさまでした。

治療棟 看護師長 島袋 源秀



第31回 ハンセン病コ・メディカル学術集会に参加して

ハプニングから始まったコ・メディカル学術集会への参加となりました。

当日乗る予定の航空機が故障や天候不良により欠航となった為、空席待ちで奄美空港にて6時間待機。前日に宮古島入りする事が出来ず急遽、那覇に1泊し当日朝、空席待ちし、何とか飛行機に乗り込み12時に宮古南静園に到着。不安でお弁当も味わう事も出来ずに14時からの発表となりましたが、初体験の発表も落ち着いて行う事が出来ました。

他の口演では、音声ガイド付きの映画観賞会を盲人会と入所者、視覚障害者を含めた地域住民との交流の一環として行っているという発表がありました。音声ガイド付きの映画がある事も初めて知り色々なことを学ぶ事が出来ました。宮古南静園の見学

もさせて頂き、その中に資料館もあり歴史を知る事が出来ました。

又、宮古島には宮古島と離島を結ぶ橋が3つもあります。特に伊良部大橋は全長3540mもあり平坦な道路ではなく、途中フェリーが通れるように高くなっており車で走ると飛行機が離陸するような感覚でとても迫力のある橋でした。

ハプニングに始まり、参加出来ないのではとも思いましたがとても有意義な学術集会参加となりました。このような機会を頂けた事、又ご指導頂いた沢山の方々に感謝申し上げます。今回学んだ事をこれからの介護支援に活かしていきたいと思っています。ありがとうございました。

治療棟 介護員 中山 照美



百寿の御祝い

令和元年9月、百歳を迎えられた入所者のお祝いを病棟にて執り行いました。

お祝いのご家族、加納園長、馬場副園長をはじめ多数の職員と市役所からも職員の方が参列され賑やかな雰囲気の中はじまりました。市職員から内閣総理大臣からのお祝い状と銀杯、奄美市長からのお祝い状と記念品贈呈が行われ、しっかりとした表情で「ありがとうございます」と、ご家族と共に受け取られました。

この日のためにご家族が用意されたケーキをご本人、ご家族、職員で食べながら談笑し、その後、ご本人を囲みみんなで「島



のブルース」を踊りました。ご本人も歌を口ずさみながら喜ばれており、とても楽しい時間を過ごすことができました。

百歳のお誕生日おめでとうございます。これからも素敵な笑顔をみせてくださいね。

病棟 看護師 松元 くるみ

研究会参加報告



前号では日本皮膚科学会鹿児島地方会参加の報告をいたしました、今回は第15回鹿児島摂食嚥下リハビリテーション研究会参加の報告で

す。会場は今までも訪れたことのある鹿児島大学桜ヶ丘キャンパスの鶴陵会館ですが、皮膚科地方会では小ホールを利用しているので、日本近代医学・医療の基礎を築き、鹿児島大学医学部前身の創始者であるウィリアム・ウィリス氏の名を冠したWilliam Willis Hallに入るのは初めてでした。そもそも近代史に疎い私は、「ウィリアム・ウィリスとは？」と、インターネットで調べるところから…。鹿児島大学の関係者の皆さま、ごめんなさい。

さて研究会の一般演題では5演題の発表があり、各施設の様々な取り組みが報告さ

れました。「嚥下時の音を機械を用いて客観的に評価した」、「チーム医療にて経口摂取が可能となった」、「食器の工夫で食事の自己摂取が可能となった」、「口腔機能低下症に対する介入」、「口腔機能低下症と全身状態の関連性」など、いずれも和光園のNST委員会がすでに達成していること、常に念頭に置いて活動していることなどでした。和光園のNST委員会が少数精鋭メンバーで構成され、いかに日々ハイレベルな活動を行っているのかを改めて実感しました。

特別講演では「摂食嚥下障害に対する理学療法の実践」というテーマで、理学療法士の立場からのお話がありました。摂食嚥下障害のリハビリテーションにおいては言語聴覚士が主体と考えられがちで、摂食嚥下障害の分野に積極的に関わる理学療法士は少なかったそうです。しかし摂食嚥下に関係する筋肉や筋膜だけが特別なものではなく、理学療法士の行う全身のリハビリテーションが摂食嚥下障害に良い影響を与えることは言うまでもありません。これからはチーム医療の一員として理学療法士も積極的に関わりたいという講演でした。

和光園のNST委員会は、各々の職種の専門性を十分に発揮できるメンバーが揃っており、とても優秀なチームです。委員長である私が「専門じゃないからわからない」と足を引っ張らないよう、これからも頑張って勉強します。

副園長 馬場 まゆみ



あまみ保育園/ハロウィーンイベント♪

10月31日 ♪子ども達が楽しみにしているハロウィーンイベントのはじまり♪

さあー！一人ひとり恐竜や魔女、ミニちゃんなどに可愛く仮装し、あまみ保育園のお友達6名でいざ出発！

「トリックオアトリート お菓子をくれないとこちょこちょするぞ」と元気の良い子ども達の声が響きわたり入所者のみなさんや職員の方から沢山のお菓子を頂きました。たくさんの方と握手をしふれあいながら「可愛いね」と言ってもらい「お菓子どうぞ」と愛のこもった頂き物をして、子ども達も大満足した様子で保育園に戻りました。袋いっぱいになったお菓子をみて、子ども達も私たちも驚きと同時に感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。

保育所では数日前から「ハロウィーンはいつ？」「おじいちゃん、おばあちゃんたちに、こちょこちょしようね」と子ども達はドキドキワクワクして31日が来るのを楽しみにしており、当日はたくさんの方と交流が出来て子ども達にとっても良い時間となりました。

ご協力して頂いた入所者様や職員の皆様ありがとうございました。

保育園でハロウィーン行事を行う事は、子ども達に季節の行事について関心をもってもらうことや、海外の行事について関心を持ってもらうねらいがあります。現代は、仮装をしてお菓子をもらうのがハロウィーンという認識ですが、もともとは秋の収穫を祝う収穫祭にイタズラしにくる魔女や悪霊などを追い出す意味合いのある行事であり人々が悪霊から逃れるために、仮装し仮面をかぶり身を守っていたと言われていました。子ども達にもわかりやすく説明し今回のハロウィーン行事でハロウィーンの由来など改めて考えるきっかけとなりました。

来年はどんな仮装をした子ども達に会えるか楽しみです。

ハッピーハロウィーン♪

あまみ保育園 保育士 碩 茜



作品紹介

作業療法で作成した入所者の方々の作品です。

一つ一つに想いが込められおり、素晴らしい作品ばかりです。

ご覧になりたい方はぜひお越しください。

リハビリテーション室

作業療法士 田口 真奈美

型抜きアート



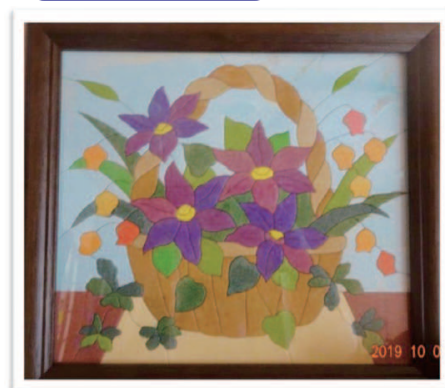
シール貼り絵



アクアリウム



パウダーアート



壁画



書道



水彩画



新人紹介



外科医長 恵 浩一（めぐみ こういち）

おつかれさまです。10月より勤務しております。外科医として16年間、鹿児島県内で働いておりました。今回縁がありまして、当園でお世話になっております。来年の3月頃までの勤務となるかと思いますが、この出会いを大切に今後の人生に役立つような経験をしていきたいなと思っておりますので、家族一同どうかよろしくお願いいたします。忘年会ではむる頑張ることを約束し、挨拶にかえさせていただきます。

NST News Letter

No.11

NST(栄養サポートチーム)は、医師、管理栄養士、薬剤科、検査科、リハビリテーション室、歯科衛生士、福祉室、看護課のメンバーで構成されています。入所者及び一般皮膚科入院患者の栄養状態の判定をし、早期栄養障害の発見と適切な栄養管理を実践することを目的としています。活動としては支援が必要な方へのラウンドミーティングを行い、多職種で情報共有や共通認識をもち、問題の解決を検討するために意見を出し合い、より良い食支援が提供できるように取り組んでいます。当園の入所者の殆どの方が高齢であり、老いとともにみられる身体の変化に合わせ特に私たちは、“その人らしく!” “食べる楽しみ”を実感できることを大切にしています。

ある事例として、食事を段々と摂れなくなり、むせこみが多くなった入所者に対して、食べやすいものや好むものの取り入れ、食事時のポジショニングの見直し、マッサージなどのリラクゼーションを提供するなど多職種による専門的な知識をもちより食

支援の具体的方法について検討しました。

また、「甘いものが好き」という本人の言葉をご家族へ伝え、今の状況で安心して食べられる甘い物はなにがあるだろうかご家族とも相談しながら差し入れしてもらいました。食べたいものを用意することで殆ど食べることがなかった入所者から「美味しい、ありがとう」と言葉が聞かれました。“食”を通して入所者・家族との繋がりも深まり、入所者の生きる力を支えるのではないかと感じました。

過去の習慣や馴染み深いもの、大事にしていることなどのその人らしさや思いを知り、この先続く人生の最期まで「食べる」ことの楽しみを支えられるように日々努力していきたいと考え活動しています。

看護課 NST委員



令和元年度 診療統計

	外来診療					再掲		入院診療		
	初診(人)	再診(人)	合計(人)	1日平均 (人)	診療実日数 (日)	紫外線療法 (件)	手術/生検 (件)	入院(人)	退院(人)	延患者数 (人)
9月	149	234	383	34.8	11	46	3	0	0	0
10月	158	245	403	36.6	11	60	7	0	0	0

- ・入院制度開始当初と比べ、軽症のうちに受診する患者が増え、入院治療を必要とする患者が少ない。
これは当園の皮膚科が広く認知され、受診しやすい病院となっている良い傾向である。

人事異動

(令和元年9月1日～令和元年10月31日)

R 1. 10. 15	恵 浩一	外科医長	採用
R 1. 10. 31	押川 春美	看護師	退職

和光園日誌

(令和元年9月1日～令和元年10月31日)

R 1. 9. 5	園外ショッピング (ビッグⅡ)
9. 12	敬老祝賀会
9. 19	園外ショッピング (タイヨー)
9. 26	バスレクリエーション (南大島)
10. 3	園外ショッピング (ビッグⅡ)
10. 8	映画鑑賞会
10. 10	県庁訪問 (～10/11)
10. 12	ゲートボール大会
10. 17	園外ショッピング (タイヨー)
10. 18	ハンセン病コ・メディカル学術集会 (～10/19)
10. 31	ハロウィーンパレード
	園外ショッピング (だいわ)

今後の
行事予定

11月14日	慰霊祭
12月17日	クリスマスイルミネーション点灯式

編
集
後
記

4月に和光園に赴任してきて早7ヶ月。11月を迎え、さすがに奄美でも朝晩は肌寒く感じるようになってきました。世間でもラグビーワールドカップが終わり、熱狂も落ち着いてきて、いつものように年末の慌たしさを迎えようとしています。

奄美に来てまだ行けていないところがたくさんあるので、様々な場所の散策に行ければと思います。

季節の変わり目で風邪も流行っています。インフルエンザの流行も早いようなので、健康には十分注意してお過ごしください。今後ともよろしく願いいたします。

編集委員 綾部 純一